

要員不足ならプロジェクトはやめろ！ ヒューマンエラーは懲罰対象から外せ！

4月28日、名古屋地本は2月25日に開催した、第26回地本委員会において委員からの発言による各職場の問題点を申し入れ、その申し入れに対する業務委員会を開催しました。以下、申し入れと会社回答です。

1. 平成27年度の乗務員職場では、要員不足などの要因により年休を失効させる事態に陥っている。

(1) 適正な要員配置をすること。

(2) 何が原因だったか調査し原因を明らかにすること。

(3) 要員が逼迫している状況でプロジェクト等の日勤指定・出張はやめること。

【回答】必要な人員を適切に配置している。(2)(3)については前提が異なるので回答できない。

2. 高齢者の運転業務などが社会的に問題になっている。J R東海においても60歳以降の乗務員は、本人の希望を尊重すること。

(1) 本人希望による他職や出向への異動を行うこと。

(2) ワークシェアリングを検討すること。

(3) 高齢者交番の作成など選択肢を設けること。

【回答】そのような考えはない。

3. 個人を狙い撃ちにした添乗が行われている。添乗での注意・指導が非違行為とされている。ボーナスカットを目的とした添乗はやめること。

【回答】そのような考えはない。

4. あら探しを目的とした、課員の私服添乗、管理者の裏面添乗をやめること。

【回答】必要な指導は実施する。

5. 苦い経験をしたJ R西日本は、社員のヒューマンエラーを懲罰対象としないことと発表した。同じ過ちを起こす前にJ R東海会社も見直すこと。

【回答】権限外事項である。

6. 雪害対策として、現在、車輪凍結時に乗務員による「どつき棒」使用が行われている。塩尻駅においては乗務員による個別の対応もマニュアル化された。車輪凍結は問題が多いと考える。

(1) 対策を全て乗務員にのみ行かせないこと。

(2) 凍結しない車両を導入すること。

(3) 凍結を解凍する装置、温水ホースなどを設置すること。

(4) 寒冷地には検査係を配置し列車遅延防止、乗務員の負担を軽減させること。

【回答】適宜適切に対応している。

7. 駅営業時間の見直しが行われようとしている。理由と目的を明らかにすること。

【回答】営業時間をご利用状況を見てけっけいしている。深夜時間帯の出札営業時間を見直すことで昼間時間帯や接客の充実等のサービス向上を図ったものである。

8. 平成28年より、山の日が施行される。休日増の見直しをすること。

【回答】権限外事項である。

9. 国鉄採用者で駅異動になった社員は、元職場に戻る例が少ない。しかし元職場は、本人が希望してなった職種であることが多い。希望を持って仕事をするために本人の意向を尊重すること。

【回答】JR採用者と同様に人事異動については、業務上の必要性に基づき各人の適正・能力及び希望等を勘案しながら行う。

『具体的な議論』

組合：年休を申し込んでいるが、失効している現実である。年休の取得日数は何日か。

会社：個人差はあるが、一人平均17日である。申し込まない社員もいる。

組合：先日の要員計画の業務委員会でも確認したが必要人員の中には年休20日取得も含まれているのか。

会社：含まれているが、申込日が集中すると時期変更になる。

組合：時期変更と言うが、他の日に付与とされず先延ばしされ結果、失効となる。

会社：時期変更は時期を設定するものでもない。

組合：臨行路は要員に余裕のある区所へ割り振るべきだ。

会社：臨行路の見直し等、努力はしている。いろいろな考え方はあるが、簡単に出来ない部分もある。

組合：数年前から、業研・プロジェクト日勤が増えている。要員逼迫の原因でないのか。

会社：業務上、必要なものは行う。

組合：要員が逼迫しているときは、プロジェクトをやめるように現場を指導すること。

会社：対応はしている。

組合：現場の実態は把握しているのか。

会社：それなりに把握している。

組合：現場によって日勤の指定方が違うと思われる。指導しているのか。

会社：全体を見ている。

組合：高齢になると急に体調を崩すことがある。高齢者に対する選択肢を広げる必要がある。

会社：60歳を超えるとミスが多くなるならば対応しなければならないが、個人差がある。医適・運適で判断する。個別には産業医との面談で対応している。

組合：本人が乗務に不安がある場合はどうなのか。

会社：個別に判断する。

組合：個別に判断する場合、所属組合による差別はしないこと。

会社：そのようなことはない。

組合：以前にあった。

組合：添乗について。1行路で3回も添乗されることもある。平常心で乗務できない。

会社：過去にミスをした人は添乗が多くなる。

組合：基本動作以外の部分まで指導される。放送等も指導している。何の目的で添乗しているのか。

会社：安全・接客向上の観点からしている。

組合：私的な時間でもしている。行き過ぎである。やめさせるべきだ。

会社：いいことは、褒めている。

組合：悪い指摘の方が多い。

組合：権限外事項であるが、JR西日本が社員のヒューマンエラーを懲罰対象としないことを発表したとき、我が社の現場社員からは良いことだと意見が多く出た。

会社：そうかもしれない。

組合：しかし、会社はその逆を行っている。JR西は有識者等の意見を取り入れそこに至った。

会社：他会社のことなので多くは言えないが、そこに至るまで相当の議論がされたと思う。当社は、そのような状況ではない。

組合：雪害対策については、乗務に支障をきたさないようにすること。

会社：各系統とも努力している。

組合：温水ホース設置は不可能なのか。

会社：検討したが水分が更に凍り付くという議論になった。

組合：どつき棒を使う以前の箇所に雪の塊がある。それを除去するために設置すべきだ。

会社：塊ですか。今後も意見を聞かせてもらいます。

組合：議論はしてきたが未解決の問題が多い。特に、要員・高齢者問題は安全問題にもつながる。今後も検討していくこと。対立。

以上